

ふくしまの復興に貢献したい！一歩ふみだす子どもたちを応援します！！

平成27年度 子どもがふみだす ふくしま復興体験応援事業 成果発表会・事業説明会

平成27年度、福島の今を伝えたい！復興に貢献したい！！という子どもたちの想いを
実現するため、福島県教育委員会では、子どもたちが自ら考え、判断し、実行する、ふく
しまの復興に役立つ社会体験活動・社会貢献活動を応援してきました。

- ◆ 開催日時：平成28年2月27日（土） 10：30～15：00
- ◆ 開催場所：ホテル福島グリーンパレス 東の間
〒960-8068 福島市太田町 13 番 53 号 TEL 024-533-1171
- ◆ 参加対象：福島県内に主たる活動拠点若しくは事務所を有し、地域に
おいて青少年育成活動に取り組んでいる又は取り組もうと
している団体及び市町村等の関係者
(国公立学校、PTA組織、特定非営利活動法人、子ども会、公益法人、学校法人、任意団体
復興支援団体、青年会議所、共同組合、民間団体や企業等)

※ 平成27年度採択事業団体だけではなく、平成28年度に本事業へ申請予定
の団体や本事業へ興味のある方全てを参加対象としました。

◆ 日程

10:30	10:40		11:40	12:15	13:15		14:15	14:40	15:00
受付	開会	成果発表 ①②③	事業 概要 説明	昼食 休憩	成果発表 ④⑤⑥		全体 講評	閉会	自由 交歓

主催者あいさつ
福島県教育委員会教育長
杉 昭重



主管課長あいさつ
福島県教育庁社会教育課
佐川 正人



成果発表① 福島県立塙工業高等学校和太鼓部「もちつきボランティア」

発表：福島県立塙工業高等学校和太鼓部 顧問 中畑 哲 氏

＜事業目的＞ 演奏及びもちつきを通して、避難されている方々と交流することで、思いやりの心やボランティア精神を育む。また演奏を喜んでいただくことで自己有用感・自己肯定感を感じさせ、今後の精神的な土台づくりの一環とする。震災から四年が経過し、閉塞感を感じている避難者の方々が一時でも晴れやかな気持ちになれるようなお手伝いをする。



＜講評：抜粋＞福島県市町村社会教育委員連絡協議会長 中島 功 氏

太鼓を通して地域に貢献する生徒さんたちが、全国に発信している姿を見て感動しました。太鼓を通して、地域に幸せを、被災をされた塙町の方々に希望を与えている姿、本当に素晴らしいことだと思います。併せて、地域の餅米を使った餅つき大会も一つの潤滑油的な形となり、これも素晴らしいことだと思います。今後とも、この活動が塙工業さんばかりでなく、地域に根ざした形で活動されることを望んでいます。

成果発表②

郡山市立桃見台小学校「花の力で地域を元気にしよう」

発表：郡山市立桃見台小学校長 磯貝 長雄 氏

＜事業目的＞ 自分たちは、自分たちの住んでいる地域とともにあることが分かるようになるために、地域への働きかけ・奉仕・協力を体験する。また、若宮前仮設住宅の避難者へ花を植えたプランターを届け、交流を通して元気になっていただく。



＜講評：抜粋＞家庭教育インストラクター 星 尚子 氏

人と人をつなぐ、そして、復興には絆が必要だという、絆やつなぐという言葉が使われていますが、それを正しく花でつないだのだなと深く感動しました。発表の中に、何回も出てきたのが「子どもたち」という言葉でありました。子どもたちに気付かせ、そして、考え、できる活動は何かということをいっしょにやってきたからこそ、仮設住宅の方々、地域の方々に響いていったのではと感じました。今後とも地域全体に広がる活動になっていければと思います。

成果発表③

福島県PTA連合会「水俣との交流事業」

発表：福島県PTA連合会 事務局長 佐藤 秀雄 氏

＜事業目的＞ 本県の中学生在が「環境学習都市」を目指している水俣市の中学生との研修・交流活動を通し、本県中学生在が視野を広め、故郷への誇りと愛着を高めながら、ふるさと「ふくしま」の復興に向け、中心となって活躍できる人材を育成する。



＜講評：抜粋＞福島県小学校長会代表 中村 利幸 氏

県PTAという大きな組織がこのような具体的に動き出したことに敬意と感謝の気持ちでいっぱいです。同じような風評被害を受けた水俣と福島と、ここで中学生が交流することでいろんなことを感じています。とても子どもたちが生き生きとして活動している様子が伝わってきました。中学生を支える大人が必要となって来ます。県内復興に向けた取組が県から市町村へ、市町村から学校へと、県内全体に広がっていければと思います。この事業が継続すること願っています。

成果発表③

事業概要説明

説明：福島県教育庁社会教育主事 石井 智明



＜主な質疑応答内容＞

Q1 プレゼンテーションの中にあった申請時の留意点については、プリントのどこかにあるか。

A1 本日は配付していない。

Q2 とてもいい大事な内容なのでどこかホームページ等に載せてほしい。

A2 プレゼンテーションは、議会終了後に社会教育課ホームページに掲載する予定です。

Q3 継続的な事業ということで、4月に実施した活動についても補助金の対象となるのか。

A3 採択通知書・指令書に記された日付より前のものは対象とならない。

Q4 来年度はいつ頃から事業を開始できるのか。

A4 来年度の募集期間は今年度と同じぐらいの時期である予定なので、1回目の採択の結果は5月中旬には採択予定ですので、5月中には開始できると考えている。

Q5 継続的、発展的な事業ということであったが、同じ事業内容ではどうなのか。

A5 子どもが毎年変わればよいが、子どもが継続して参加するのであれば事業内容の工夫や発展性がほしい。今年度採択された団体が、28年度採択されるとは限らない。同じ内容だと採択委員会での印象もよくない。同じ内容でも内容の発展を申請書に記載されることを望む。

A5 今年やった事業であれば素晴らしい成果があり、また、課題が見えて来ると思う。その成果を生かし、課題の解決に向かう事業としてほしい。

成果発表④

特定非営利活動法人チームふくしま

「震災があったから“こそ”生まれた物語を全国に発信！ひまわり甲子園2016」

発表：特定非営利活動法人チームふくしま 代表理事 半田 真仁 氏

＜事業目的＞ 福島の子どもたちが全国への応援の感謝とともに、「福島の現状」や「震災から気づいたこと」、「福島の魅力」を、子どもたちが発信する。また、福島ひまわり里親プロジェクトに取り組む教育団体や企業と連携して「ひまわり甲子園」を開催し、子どもたちの交流を図る。



＜講評：抜粋＞福島県小学校長会代表 中村 利幸 氏

おもしろいのは生まれた物語をさらに広めていくというところでありました。さらに、公民の教科書や道徳の資料で紹介され、それによって子どもたちの中に種が巻かれることがすばらしい。計画では西の方へ広げていくとあるが、ひまわりプロジェクトをさらに広めていただき、前向きにやってみようとする物語、これを復興の種にしていただければと思います。

成果発表⑤

郡山グリーンカレー愛好会「郡山グリーン化大作戦」

発表：郡山グリーンカレー愛好会 椎根 聡人 氏

＜事業目的＞ 県立郡山商業高等学校と協力しながら、今まで学習してきた商業の知識を活かし、「郡山グリーンカレー」を軸に、福島県産の食に関する商品開発から広告・販売まで、高校生が主体となって福島県産（郡山産）の食材を使った商品を全国に発信することで、風評の払拭や食の安全をPRする。



＜講評：抜粋＞家庭教育インストラクター 星 尚子 氏

発足した当時は順調であったが、そのあと困難なことがたくさんあったんだという今日までの道のりに感動しました。震災によって大きなダメージを受けたと思うが、それが愛好会の絆を深めることにつながったのではないかと思います。郡山を思う気持ち、何か地域の特色ある物にしたいと、地域の高校生とともにやったことが、愛好会のステップアップとなったのではないかと。ぜひ、若い力からアイディアを得て、さらに盛んに活動することを願っています。

成果発表⑥

福島県高等学校教育研究会農業部会
「ふくしま復興マルシェ」

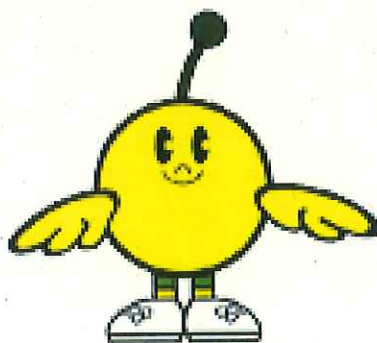
発表：福島県立明成高等学校 教諭 志賀 勲 氏

＜事業目的＞ 福島県内の農業高校生が農業実習で栽培した生産物や加工食品、復興6次化新商品などを首都圏で販売することで、ふくしまの美味しさと安心・安全を発信する。また、それらの商品をインターネットにより全国に向けて販売もして復興に向けた取組を一層充実させる。



＜講評：抜粋＞福島県市町村社会教育委員連絡協議会長 中島 功 氏

すばらしい事業の発表に感謝します。高校生が先駆けて6次化産業に取り組んでいる姿を見させていただきました。また高校生がどのように復興に取り組んでいったらよいかも見させていただきました。この事業によって、高校生が自分のもっている力を発揮することができ、内向的だった生徒が人前に出て体験している姿に感動しました。このように、高校生が地域に根ざして福島県の復興に寄与していただくことがこれからも必要であろうと思います。



講 評

福島大学地域創造支援センター

副センター長 木暮 照正 氏



<講評：抜粋>

今回は採択事業22のうち、6団体に発表いただきましたが、この事業に取り組んでいただいた団体様、関係者の皆様に御礼を申し上げたい。福島県教育庁、事務局にも御礼申し上げたいと思います。

ここに旗があるが、誰が主役かと改めて考えると、子どもであります。今回は事業説明会、成果報告会ということで報告いただいた方もいますが、事業の趣旨を考えると、子どもたちに一番御礼を申し上げたい。事業に関わられた方は、すでに子どもたちにエールや激励、お褒めの言葉をかけていらっしゃると思うが、改めて取り組んでくださった子どもたちにエールというか激励の言葉をかけ、褒めてあげたいと思います。

我々はどうしても叱るというのは簡単なのですぐにやっつけてしまいますが、褒めるというのはなかなか難しい。子どもたちのよいところを見つけ褒めてあげてほしい。

6件の発表ともに優れていたなので改めて取り上げないが、来年度取り組まれる団体様も申請されると思うので、その点について触れたいと思います。子どもたちが主役であることを確認し手いただきたいと思います。だが、1年間で完結するための事業であるため、大人がレールをしいて、その上を子どもたちが進んでいくようになること增多と思いますが、子どもたちの成長を考えると、自発性を大切にしていきたい。発表の中にも子どもたちの声を拾い上げて進めたというものがあった。ぜひ、子どもたちの自発性を大切にしてほしい。そのために、大人と子どもの適度な距離間を保ってほしい。失敗をしてしまっても寛容に受け止めることも大切です。大人の側が余裕をもっていないとそのような取組はできません。大人の代わりに子どもたちにがんばらせるというような、願いを投げてしまうのではなく、大人側が余裕をもって距離を保っていくことがやはり大事であると考えます。

今年度の発表は、とても素晴らしく子どもの自発性を引き出す事業でありました。ぜひ、来年も子どもたちの自発性を引き出すような計画を期待して講評とします。



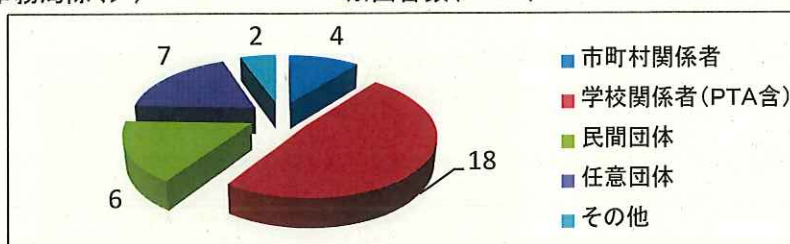
ふくしまから
はじめよう。

平成27年度子どもがふみだすふくしま復興体験応援事業成果発表会及び事業説明会アンケート結果

◆参加者の役職等(参加者数64名<県事務局除く>)

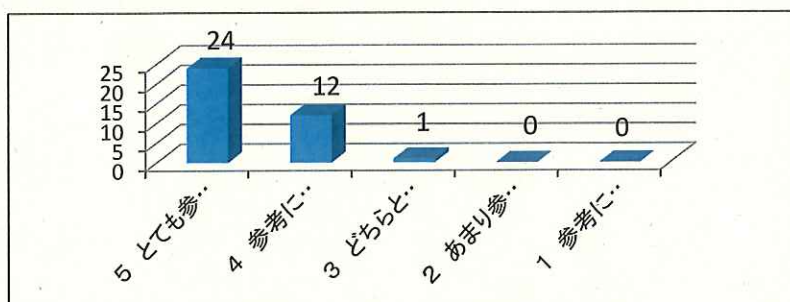
※回答数(N=37)

市町村関係者	4
学校関係者(PTA含)	18
民間団体	6
任意団体	7
その他	2



◆成果発表の感想等

5 とても参考になった	24
4 参考になった	12
3 どちらともいえない	1
2 あまり参考にならなかった	0
1 参考にならなかった	0

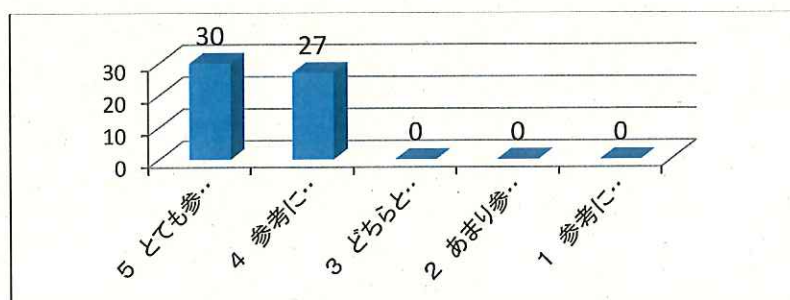


<主な意見>

- 各団体、ふくしまの復興のために様々な取組をしていることが分かり大変勉強になった。
- どれも素晴らしい事業でした。
- 事前事後アンケートの結果により体験で子どもは成長することが分かった。
- 今後も事業の継続をお願いしたい。
- 事業内容の多様さに感動しました。
- 来年度へ向けて大変参考になり、活動への指針を得ることができた。
- 補助金の効果的な活用の仕方をもっと聞きたかった。
- この事業を行うことで、子どもたちの自主性・協調性が養われ、故郷を見直すきっかけや人とのつながりの大切さに気づけると思う。
- ▲ 子どもからの発表に、大人が補足する形の発表ではどうか。
- ▲ 準備されていたVTRを見れなかったのが残念。
- ▲ 子どもをもっと前面に出した発表を観たかった。

◆事業概要説明の感想等

5 とても参考になった	30
4 参考になった	27
3 どちらともいえない	0
2 あまり参考にならなかった	0
1 参考にならなかった	0



<主な意見>

- プレゼン説明資料をHPアップして下さい。
- 採択趣旨が理解できた。
- 子どもたちと支えて下さる方々と相談しながら申請させていただきます。
- 子どもたちへの貴重な場を支援していただいております。
- 理解しやすい資料をありがとうございました。
- ▲ 事業の周知PRをもっと徹底して下さい。構想を持っていても予算の部分で挫折している事業者もいると思います。
- ▲ 学校関係者は2/10の自己資金の捻出をどうやっているのか詳しく聞きたい。

- ▲ 補助金を増額しても使い勝手を良くしていただきたい。
- ▲ 予算の費目等のしびりが難しいと感じた。

＜本事業への主な感想・意見・要望等＞

- 良い事業なので28年度に申請したい。
- 素晴らしい発表内容でした。
- 参加した子どもの発表が良かった。
- 今後も県内で多くこの事業が行われることを期待しています。
- この事業を通して子どもの実践力と将来への深まりを期待しています。
- この事業で子どもが大きく成長し、福島に誇りを持てたと思います。良い経験をさせていただきました。
- 復興をテーマにした活動が無くなっていくことが願いです。
- 人材育成という観点でも継続していただきたい事業です。
- ▲ 自己資金20%は大きいので見直してほしい。
- ▲ 発表会をもっと大々的に大きな会場でたくさんの人に聞いていただけるよう改善を期待しています。
- ▲ 県外の子どもたちにも予算を使えるようにしてほしい。
- ▲ 参加した子どもの発表や報告ができると良い。
- ▲ 具体的な相談をできるように窓口を増やしてほしい。
- ▲ 学校と民間が協働することはとても大変である。補助金の有効活用できるような事業展開ができるようなアドバイスがほしい
- この事業を応援しています。
- 大変参考になった発表内容でした。

